

# 認知症の症状とケアの流れ

認知症は少しずつ進行し、症状が変化していきます。家族や周囲が認知症を理解して、上手にご本人に対応していくことが大切です。(原因疾患や身体状況によって経過が異なりますので、この通りの経過を辿る訳ではありませんが、今後の介護や対応の目安として下さい。)

	気づき	軽度	中等度	重度	終末期
ご本人の様子 (症状や行動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物忘れが見られ、人の名前や物の名前が思い出せないことがしばしば見られる。</li> <li>●会話の中で「あれ」「それ」などの代名詞がよく出てくる。</li> <li>●日常生活については自立して過せている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●買い物で必要なものを必要なだけ買うことができない。</li> <li>●夕食の段取り、家計の管理などに支障を来す。</li> <li>●大事な物を何処に保管したか思い出せずに探し回ることが増える。</li> <li>●同じことを何度も話したり、聞いたりする。</li> <li>●日常生活で見守りなどが必要となってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●季節にあった服を選ぶことができなくなる。</li> <li>●服を着る順番がわからなくなる。</li> <li>●外出先から一人で戻れなくなる事がある。</li> <li>●日常生活で介助が必要となってくる。</li> <li>●時間や場所がわからなくなることが増えてくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歩行が不安定になり、転倒なども増えてくる。</li> <li>●トイレの場所が分からず失敗することが増えてくる。</li> <li>●食べ物でないものも口に入れる。</li> <li>●食事や入浴など一人でできず介助が必要になる。</li> <li>●家族を認識できなくなってくる。</li> <li>●日常生活で常時介護が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言葉によるコミュニケーションが難しくなる。</li> <li>●表情が乏しくなり、刺激に対する反応が鈍くなる。</li> <li>●歩くことが困難となり、ほぼ寝たきりの状態となる。</li> <li>●介護なしでは日常生活を送る事ができなくなる。</li> </ul>

**◎地域包括支援センター**  
高齢者の介護・健康・福祉に関する総合相談窓口です。介護保険サービスを利用するための介護認定について相談することも可能です。

**◎サロン・居場所など**  
活動的に過ごしましょう。

**◎居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)**  
利用者が日常生活を送る為に必要な保健医療・福祉サービスを利用できるよう、利用者の心身状況や環境などを考慮してサービス利用の連絡調整を行います。

**◎認知症の人と家族の会などの家族会**  
同じ悩みを持つ当事者や家族同士が意見交換して、介護や生活上の工夫を学んだり、気持ちを共有することができます。

**◎意思決定支援**  
財産管理や身上監護など、ご本人の権利を護るための制度を利用することができます。

**◎日常生活自立支援事業**

**◎成年後見制度**

**◎認知症カフェ**  
認知症の人、その家族、そして支援者が集まって、和やかに過ごすことができます。専門職もいますので、介護のことについて相談することも可能です。

**◎介護保険で利用できる主なサービス**

- ◆訪問介護：ホームヘルパーに訪問してもらい、入浴、排せつ、食事等の身体介護や調理、洗濯、掃除等の生活援助を受けることができます。
- ◆通所介護・通所リハビリ：デイサービスやデイケアに通い、他者交流やレクリエーションを行ったり、リハビリを受けることができます。
- ◆訪問看護・訪問リハビリ：看護師やリハビリの資格者に自宅に来てもらい、健康状態の管理やリハビリを受けることができます。
- ◆ショートステイ：ご本人の孤立感の解消や心身機能の維持回復、家族の介護負担の軽減を目的として施設に短期間宿泊することができます。

**◎介護保険で入所ができる主な施設** (※入所にはご本人の介護度や身体状況などの条件があります。)

- ◆特別養護老人ホーム：常に介護が必要で在宅での介護が困難となった方が施設で介護を受けながら生活を送ることができます。
- ◆介護老人保健施設：在宅への復帰を目的として施設へ入所し、心身の機能回復訓練を受けることができます。
- ◆グループホーム：認知症などで生活が困難な方が専門スタッフの支援を受けながら少人数で一般住宅などで共同生活を送ります。

**◎かかりつけ医**

日常の健康管理も含めて、早い段階でかかりつけ医に相談ができる体制を作っておきましょう。

**◎かかりつけ薬局**

状態に応じ、医師と連携し、薬剤師が自宅に訪問して、お薬を管理することもできます

**◎認知症疾患医療センター**  
認知症に関する鑑別診断、周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門相談を受けることができます。

**◎病院(もの忘れ外来 認知症外来)**

**◎認知症専門医院・診療所**  
病気や症状について専門的な診断・治療をする外来や医院・診療所があります。

**◎病院(一般病床)(療養型病床)**

**◎病院(精神科病床)(認知症治療病床)**  
認知症の周辺症状が強く出現した場合は、入院することも可能です。

**ご家族の心構えや準備**

- 「おかしい」「いつもと違う」と思ったときには早めに「地域包括支援センター」に相談をする。
- 今後のことも考えてかかりつけ医を持つようにする。

**■家族間で話し合っておくべき点**  
(可能であればご本人も交えて)

- ・今後の金銭管理や財産管理について
- ・どのような終末期を迎えるか

**■介護・医療について**

- ・接し方や介護、医療について勉強しておく
- ・本人の役割を全て奪わず、出来ることはしてもらおう。
- ・本人が失敗しない環境づくりを配慮する。

**■介護する家族の休息も大切に**

- ・全て抱え込まずに上手に介護保険サービスを活用する。
- ・家族の会などで話を聞いたり、自分の気持ちを話せる場所を作る。